

6. アンケート地区別分析項目

TU130103

6-10. 県西地区 会員アンケート結果分析項目

① アンケート回収状況(アンケート属性、件数データー集計結果)

1) 回収率

回答件数	8 件
総発行数	12 件
回収率	66 %

年齢構成

年齢	人数	男	女
5			
7			
11	1	1	
12	2	2	
13			
15			
16			
17	2	2	
18			
19	1		1
20			
21			
22			
23			
24	2	1	1
26			
34			
38			
合計	8	6	2

2) 日中活動の場

	件数
12 幼稚園	名
20 小中学校	1 名
22 支援級	2 名
32 専修校	1 名
34 通信制	1 名
35 特別支援学校	名
51 通所福祉施設	2 名
52 入所	名
70 在宅	1 名
合計	8 名

3) 障害者手帳の状況

療育手帳 A1	1 名
A2	0 名
B1	0 名
B2	3 件 精神3級1件
B3	1 (神奈川判定B2)
無し	3 名
合計	8 名

4) 記入者

本人	0 名
家族	8 名
合計	8 名

5) 住んでいる所

自宅	8 名
GH	0 名
入所	0 名
合計	8 名

2 総回答件数状況

1) NO 質問項目	○良 かった事	● 困った事	20 望む事	30:合理 的配慮	合計 件数	%
NO1 療育・教育	8	12	6	4	30	24.8
NO2 障害児支援	2	9	5	3	19	15.7
NO3-1 働く(一般就労)	1	1	0	0	2	1.7
NO3-2 働く(福祉就労)	0	3	3	1	7	5.8
No4 医療	5	8	7	1	21	17.4
NO50 警察や交番・司法	0	0	0	0	0	0.0
NO6-1 生活支援(店舗等)	3	5	0	2	10	8.3
NO6-2 生活支援(公共交通機関)	3	3	1	0	7	5.8
NO6-3 生活支援(消費生活等)	1	6	3	0	10	8.3
NO7 生活(住まい)	1	2	1	0	4	3.3
NO8 救急・消防・災害	2	1	0	0	3	2.5
NO9 政治参加	0	0	0	1	1	0.8
NO10 社会参加	3	1	3	0	7	5.8
合計	29	51	29	12	121	100

換算

121

2) 自由記入

NO 質問項目	件数
10 困った事	0
20 助かった事、親切だった事	1
30 アンケートへの感想、意見	1
40 会への要望、意見	0
50 その他	2
合計	4

②生活シーンNO項目別回答コメントの分析概要報告(県西地区)

NO1 療育・教育

- ・小学校卒業式では先生の熱心な指導で最後まで参加でき証書も受け取れた。
 - ・自閉症スペクトラムを理解した療育者が少ない。
 - ・就学しても、人次第。熱心な先生に当たればよいが。教員全体に自閉症スペクトラムへの理解が必要。親・家族への寄り添った支援が無い状態が長年続いている。
 - ・知的に遅れが顕著でない場合、親は支援級在籍を望んでも規定外だからと教育委員会と意見が合わないことがある。
 - ・小学校に通級指導級があるが、中学になるとなくなってしまいきびしい。
 - ・医療機関や相談機関、教育、児童相談所との間の連携がとれない。
- (望む事) 中学にも通級指導教室がほしい。
もっと早い段階から療育を始められるようにしてもらいたい。
教員に自閉症スペクトラムの理解を

NO2 障害児支援

- ・相談機関に行っても、話はきいてくれるがそれだけで具体的なアドバイスがない、という意見が複数あり
 - ・障害がわかった時に、同じ立場の親と話ができるとうよい
 - ・小さい時から、健常児と一緒に過ごす場がもっとあって良い。大人になってから理解するより子どもの頃から自然に接することが大事。
 - ・習い事は対応してくれる所もあり、学校よりスムーズ。
- (望む事) ケア会議を開くなど、チームとしての支援体制がほしい

NO3-1 働く(会社などの一般就労)

- ・しごとサポーターが同行してハローワークの登録をしてくれた。
色々アドバイスもいただき助かった。
- (望む事) フットワークかるく、本人に寄り添ってくれる支援者がいてほしい

NO3-2 働く(福祉的就労・施設・作業所など)

- ・福祉就労の場なのに急な配置転換をされ、親・本人共にとまどった
 - ・福祉的就労の場は交通の便が悪い所に多い
- (望む事) 自閉症者には見通しがつくように支援してほしい
在宅ワークができるシステムがあるとよい

NO4 医療

- ・耳鼻科に困ったという意見が複数あり
 - ・待合室での待ち時間をおとなしくさせるよう、いろいろ工夫している。
 - ・採血はとても嫌がるが、押さえつける以外のやり方はないものか・・・
- (望む事)
自閉症を医療関係者に理解してもらいたい。
絵カードや写真で説明したり文字に書いたりして、本人が理解して治療に入れるようにしてもらいたい
一般の人の待合室と別の待合室があるとよい

NO5 警察や交番・司法 コメントなし

NO6-1 生活支援(店舗・レジャー施設・余暇の場)

- ・スーパーなどで、走りまわってしまいしつけがなっていないといわれる。
 - ・スーパーなどでは音が大きすぎ、匂いもしたりと感覚過敏のある人にはきつい。
 - ・立ち寄る頻度が多いコンビニなどに、「何かあったら教えてください」と声をかけておくとよい。
- (望む事) 自閉症スペクトラムへの理解・啓発

NO6-2 生活支援(公共交通機関)

- ・電車やバスの中で奇声を出してしまう。結果、使いにくい。
 - ・電車好きな子は車内でもおとなしくできます。
- (望む事) 一般客への障害理解

NO6-3 生活支援(消費生活・情報アクセス・コミュニケーション保障)

- ・親が近くにいる間はよいが大人になって詐欺などにはあいやすいだらうから心配。
- ・障害児の親ということで、宗教の勧誘にあったという意見が複数。
- ・パソコンが好きだが、情報の整理や善し悪しが判断しにくいだらうから、その点を心配している。

NO7 生活(住まい)

- ・近所の理解が得にくい。
- ・兄弟児もおり、本人のスペースを確保するのがむずかしい。
(望む事) グループホームが増えてほしい

NO8 救急・消防・災害

- ・災害時は近所の人頼りだらうから、近所づきあいは苦手だが、必要と思っている。

NO9 政治参加

コメントなし

NO10 社会参加(地域、自治会、民生委員など)

- ・防災訓練や自治会行事には参加するようにして、地域の人に子どもを認識してもらえるようにしているという意見が複数

全体としてのコメント

- ・会員数の少ない地区なので、このアンケートが地域の特色にはならないのではないかと思う。
- ・早い時期から自閉症療育を受けたい(受けたかった)という声が多い。その為には医療機関にかかる必要があるかと思うので、身近に児童精神科があるとよい。
- ・学校の先生に対しては不満が多い。
- ・皆それなりに地域で溶け込めるように努力しがんばっているように感じた。
(子どものために必要だが、正直そこまでしなければいけないのはキツイという声も)
- ・知的にボーダー又は以上の会員が多いので、中学での在籍級には色々頭を悩ませている方がおおい。
- ・児童相談所を利用していた会員も多いが、具体的アドバイスが得られない状況。
児童相談所がもっと専門性を持ってくればよい。
- ・のんびりしたおおらかな土地柄のせいもあり、支援が後手後手になってしまう傾向もあるように思う。
- ・障害特性に気付いた保健師、保母、先生は伝えることをためらわずに事実を伝えることが必要なのではないか。

以上